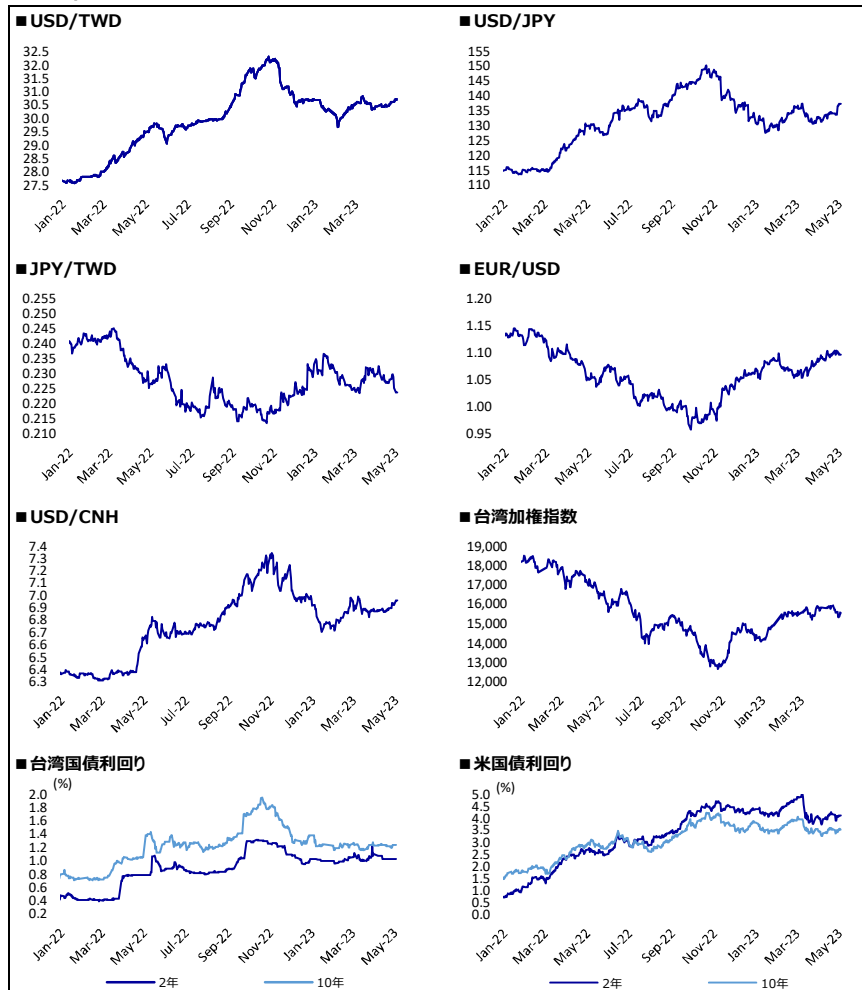


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/24は30.640でオープン後、方向感なくレンジでの推移が続いた。4/25は半導体製造大手が前週の決算発表で保守的な見通しを示したことや地政学リスクが意識され、台湾株が下落する中、外国人投資家の台湾ドル売りから30.68台まで上昇。4/26は米地銀の決算を受けて米株が下落した影響で、リスク回避の動きから台湾ドル売りが優勢となり、瞬間的に30.750をつけたが、その後は30.72付近で推移。4/27は台湾株が反発したことから台湾ドルも買い戻され、一時30.7を割り込む場面もみられた。4/28は30.69付近で推移していたが、日銀が緩和政策を維持する方向を示したことからドル円が上昇すると、つられてドル台湾ドルも上昇。最終的には先週比0.4%ドル高台湾ドル安の30.740で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は381.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初4/24は134.12でオープン後、植田日銀総裁が金融緩和と継続スタンスの発言を行ったことから、円売りが優勢となり、134円台後半まで上昇するも、米金利の低下から134円台前半に戻した。4/25は米経済指標が強弱入り交じる内容であったが、米地銀の決算発表で預金が大流出したことを受けて金融システムへの不安が再燃し、リスクオフの流れに。米株式市場が下落する中、リスク回避の円買いや米金利の低下から133円台半ばに下落。4/26もリスクオフの合いが続き、一時133.01まで下落。引けにかけては買い戻され、133円台後半へ戻した。4/27は米1～3月期コア個人消費支出デフレーターが市場予想を上回る伸びを見せ、利上げ期待が高まり、ドル買いで反応。また、同時に発表された米新規失業保険申請件数と失業保険継続受給者数が共に予想を下回った事も材料に一時134円台前半まで反発した。4/28は日銀が金融政策決定会合の結果を発表すると、緩和策の継続とともに1年から1年半かけて多角的レビューが実施されることが示されると、133円台前半まで下落後、135円手前まで急騰するボラティルな展開。植田日銀総裁の会見が始まるとドル円はじりじりと上昇し、海外時間には136円台に乗せた。その後も米3月PCコアデフレーターや米Q1雇用コスト指数が予想を上回り、ドルが買われ一時136.56をつけたが、既にドル円は急上昇しており、さらに上値を追う展開とはならなかった。最終的に先週比1.7%ドル高円安の136.34で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.750-30.900
今週は上昇を見込む。月初であることや、FOMCでの0.25%の利上げが予想されている中、ドル買いが優勢な状況がづくであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：133.00-139.00
今週は日本がゴールデンウィークである一方、イベントが多く予定されており、ボラティルな展開を見込む。足許の経済指標ではインフレの根強さが意識される場面も多く、FOMCで引き続きインフレ抑制のためにタカ派なスタンスを示すようであれば、上値を追う展開となるであろう。

今週の予定

5/1 (MON)	米4月ISM製造業景気指数
5/2 (TUE)	米3月JOLTS求人件数
5/3 (WED)	日本休場、米4月ISM非製造業景気指数、米FOMC
5/4 (THU)	日本休場、ECB理事会、米3月貿易収支
5/5 (FRI)	日本休場、台湾4月CPI、米4月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。